

# 全国学力・学習状況調査 考察

## ○本校の結果と、全国平均正答率との比較

	国語A (主として知識)	国語B (主として活用)	算数A (主として知識)	算数B (主として活用)
本校	73%	63%	82%	53%
横浜市	72%	60%	79%	49%
全国平均	73%	58%	78%	47%

### 国語 A・B問題の結果

国語Aについては全国平均、国語Bは全国平均よりやや高めという結果であった。

観点別で見ると、どの観点も全国平均を上回っている。「書く」の観点については、前年度の横浜市学力学習状況調査で課題として挙げられていた観点なので、一定の成果が出ていると考えることができる。

設問別の結果を分析してみると、物語文で登場人物の心情を読み取る、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って適切な質問をする設問での正答率が高かった。普段の授業の中で、国語に限らず話し合い活動を行って問題を解決してきたことや、物語文を深く読み取ってきたことの成果と言える。

課題としては、漢字の読み書き、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことが挙げられ、さらなる基礎・基本の確実な定着が望まれる。

### 算数 A・B問題の結果

基礎・基本、活用ともに、全国平均を上回っている。全国平均の数値から考えると、活用力が育っている。領域別で見ても同様である。

設問別にみると、比較的難しいとされる「割合」に関わる問題では全国の平均正答率を大きく上回っていた。また、式の意味や出てきた数値を的確に解釈すること、学習したことを別の場面にも応用して考えることがよくできている。授業の中で、問題場面を単に答えを出すことに重きを置くのではなく、図などに表して説明したり解決したりすることを大切にしてきた成果が表れており、さらなる充実が望まれる。

課題としては、小数・分数の計算、複数のグラフの読み取りが挙げられる。国語同様、基礎基本のさらなる定着を目指していきたい。

### 児童質問紙から言えることと、今後の方向性

上記の調査結果から考えると、国語、算数同様、基礎基本の確実な定着が課題である。記述式設問の正答率が高く、活用力が育っていることが成果といえる。

児童の学校生活や学習に対する意識調査を分析すると、「学校に行くのは楽しいと思いますか。」や、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。」の問いに対して「そう思う」と答えた児童の割合は、全国平均よりも15～16ポイント上回っていた。「国語や算数の勉強が好きですか」という問いに対して、10ポイント程度高い結果であった。一つひとつの行事を大切に扱ってきたことや、児童の興味関心を大事にした授業を行ってきた成果と言える。

しかし、「調べ学習をよく行ったか。」や、「学習を振り返る活動をよく行ったか。」という問いに対しては全国平均よりも低い結果が出ている。自ら疑問に思ったことを調べたり、自分の考えを書いたり、振り返ったりする活動の一層の充実が必要である。以上のことから課題に向けて、以下のことに取り組んでいきたい。

- ① 中学へのつなぎを考えた、基礎・基本（漢字、計算など）の反復学習
- ② 自ら課題について必要な情報を調べ、自分の考えを書く場を増やしていくこと